

ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森県立むつ養護	学校			
授業について	教科領域名 (✓又は■で 記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input checked="" type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
	単元(題材)名	ICT 機器の適切な使い方を考えよう					
	単元(題材)の目標	余暇時間の情報モラルについて考え、適切な時間や使用方法を知る。					
学習集団と実態	学部・学年・人数	高等	部	全学	年	4 9	人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	※個別学習の場合は、個人の本単元(題材)における主な実態を端的に記入する。 高等部全学年の生徒を対象とした。普通中学校から進学してきた生徒の他、自閉症やダウン症を併せ持った生徒、肢体不自由の生徒等、多様な実態の集団である。その殆どが、学校や家庭等でタブレット端末、スマートフォン、ゲーム機を使用(もしくは経験)している。					
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称	※使用した ICT 機器(入出力支援装置等)名を記入する。 iPad(第8世代、32GB)、Apple TV(4K、32GB)、iPad Air(第4世代、256GB)、プロジェクター、スクリーン					
	使用したアプリケーションの名称	※使用したアプリケーション名を記入する。 Google Jamboard					アプリマーク 
	主な活用の用途 (✓又は■で 記入する。)	(複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input type="checkbox"/> 活動支援(<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input checked="" type="checkbox"/> 社会生活支援)					
	ICT活用のねらい	リアルタイムで意見を出し合い、その様子が画面で共有されることで、さらに新たな考えや意見を出したり相手の意見に共有したりする「対話を通じた深い学び」を補助するために ICT 機器を活用した授業を展開した。					
活用の状況と支援	※ICT 活用場面と行った支援について記入する。 「夏季休業や冬季休業中、ICT 機器を一日何時間使用するか。」や「ICT 機器は、寝る何時間前にやめるか。」を Jamboard で出しあった。使用方法を T1 がスクリーンに投影することで生徒は操作方法を理解し、テーマに沿った意見を出したり、出された意見を見て感想を話したりした。生徒の実態により操作が難しい場合は、教師が意見を聞き取ったり操作の支援をしたりした。 活動をすすめていくうちに、同じ意見が出た時は付箋の色を揃えて近くに配置したり、直接記入できることが分かりグルーピングしたりする等、積極的に操作したり見やすくなるよう工夫したりする様子が見られた。また、出された意見に「私も同じ。」や「時間がかかりすぎではないか。」等と即座に反応し、出した意見を振り返ったりする様子が見られた。 活動終了後、出来上がったデータや教師が提示した資料を模造紙に印刷し掲示することで、気が付いた生徒が話題にしたり友達と振り返ったりする場面が見られた。						